

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和4年2月15日(火)
午後1時30分から午後2時32分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長)片岡健一郎 (副委員長)梅村均
(委員)鬼頭博和、水野忠三、黒川武、堀 巖、榊谷規子
- 5 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子
- 6 委員長挨拶
- 7 協議事項

(1) 委員会代表質問について

片岡委員長：委員会代表質問の通告要旨草案を作成した。確認頂きたい。

【食品ロス削減の推進について】

榊谷委員：生ごみのたい肥化の話は取り上げないのか。また、コミュニティフリッジは、委員全員の共通認識だろうか。私はまだ自分の中に落とし込めていないが。

片岡委員長：コミュニティフリッジは私の考えで入れたが、皆さんはどうだろうか。

梅村副委員長：コミュニティフリッジをやるべきだ、という提案ではなく、フードドライブばかりでなく、新しい方法もあるので様々な事例を研究しながらより良い施策にしてほしいという意図だと捉えている。

榊谷委員：了承。

黒川委員：生ごみのたい肥化は長く取り組んできたが、あまり広がっていないのが現実。尻すぼみになっている。たい肥化した後の使い道がわからなくて、捨ててしまう人もある。たい肥化した先にどうするかというビジョンを呈することが出来ないなら取り上げる価値はないと思う。コミュニティフリッジは、とても合理的。(以下、音声欠落)

片岡委員長：協定については、結んでほしいという意図で入れた。協定があればコミュニティフリッジにも繋がるかも知れない。まずは紹介したい。これ以外にも良いやり方があるかも知れない、一つの事例として提示したい。

鬼頭委員：賛成。フードドライブもまだ周知が不十分な点があるので、改善を求める一環でこういった提案をしていいと思う。生ごみたい肥化は、今回の食品ロス削減というテーマに入れ難いということだと理解する。

片岡委員長：食品ロス削減の話の中に、生ごみのたい肥化をどうやって入れたらいいかわからない。

梅村副委員長：生ごみたい肥化も食品ロス削減に繋がるが、もう少し調べる必要

あり。たい肥化したものをどうするかとか、なぜうまく広がっていかないのかとか。

片岡委員長：他に。

黒川委員：要旨はこれで賛成。前段で話をする中で、生ごみたい肥化にもふれながら質問しては。

(異議なし)

【ブランド野菜研究事業の推進について】

榊谷委員：加工品の開発の具体的イメージは。それよりはちっちゃい菜を使ったメニューを出してもらう店を増やすほうがいいのでは。

片岡委員長：例えば漬物とか。保存が効くようなものにしたらいいのでは。

榊谷委員：発想は面白いが、飲食店でメニューに出してもらうほうが手っ取り早いと思う。

黒川委員：若い人はレシピをもらうより、レシピ動画を公開するほうがやりやすいと思う。

片岡委員長：加工品に絞った補助金創設ではなく、レシピ動画や飲食店でのメニュー開発のほうがいいか。そのなかで事業者の後押しとして補助金はどうか、とする。

水野委員：広く聞くのであれば、需要を増やすために事業者の後押しとして何ができるか聞くのはどうか。

堀委員：市民が手軽に家庭菜園で挑戦できるからという説明が執行機関からあったが、具体的に取り出して質疑してはどうか。また、ヒアリングを行い、議論を重ねてきた結果として委員会はこうすべきと考える、というトーンの強さが足りないと思う。

片岡委員長：家庭菜園は⑤の質問の中で紹介しながら取り入れる予定。知ってもらい、育ててもらふことの提案は織り交ぜる予定だったが、一つの質問項目とすべきか。

堀委員：種の配布や、作付けする農家への補助金や、ブランド野菜として取り組むなら今の予算では少なすぎる。

片岡委員長：30千円の予算で何ができるか。種の配布、飲食店でのメニュー開発補助金、レシピ動画作成を提案し、はっきりと予算増額というキーワードも入れてしまうのはどうか。

梅村副委員長：野菜のブランド事業は、ちっちゃい菜に限ると本当にお金をかけていいものなのか。だからまず戦略を練ってほしい。出来ないならあきらめてもいいと思っている。ここで増額を求めることはどうなのか。

堀委員：ヒアリングでは、担当課長が熱心に取り組んでいたもので、それを前提とすべきで、否定するのはどうか。

梅村副委員長：予算を増額して、新しい価値を生み出すという観点ならいいと思う。

片岡委員長：予算増額のキーワードは入れているか。

水野委員：最終的に、補助金がなくても作りたい野菜でないと、予算増額は難しいのではないかと。メリットがないと補助金はつukれない。

片岡委員長：様々な施策を推進するには予算増額が必要と考えるが、見解はどうか、という質疑にするのはどうか。

梅村副委員長：分析して戦略をつくってほしい。

【五条川健幸ロードの除草対策について】

水野委員：確認だが、山羊の事例は取り上げるか。

片岡委員長：通告要旨には入っていないが、事例紹介する。

梅村副委員長：②は必要か。③と回答が被るのでは。意図は。

黒川委員：草を刈るだけではだめだ。付加価値がないと人は動かない。過去に1回やったのは、草を刈った後に花を植えた。コスモスだったので、風で倒れてしまったが。五条川では水仙が群生しているところもある。菜の花も。五条川の堤防には色々な花があるので、うまくイベントを仕掛けていくのはどうか。

片岡委員長：まず梅村議員の質問から。除草回数を増やすなどの検討がされているかまず聞いて、おそらくないはずなので、事例を紹介する。

榊谷委員：山羊の事例は②に入れるか。

片岡委員長：その予定。(以下、音声欠落)

梅村副委員長：堤防なので、草が生えていても構わない、という回答になってしまふといけなないので、もはやただの堤防道路ではなく、健幸ロードであるから、価値のある道にしていくために、除草も必要だし、花を植える。

片岡委員長：除草と併せて花を植えて価値のある道にしていく、という質問に改めたい。

梅村副委員長：花を植えることを求めるわけではなく、そういうやり方で除草対策を行うという視点。テーマが変わってしまう。

水野委員：花はいいと思うが、堤防に植えていいものといけなないものがあるはずなので確認したほうがいいと思う。

片岡委員長：花を植えてはどうか、ではなくて、花を植える手法もある、という表現がいいか。

榊谷委員：現在も水辺を守る会が彼岸花を植えているので、既にやっていますという答弁が返ってくるかも。

片岡委員長：今やっていることにプラスしてもらおう。

堀委員：市民から除草が不十分だという声がある。除草による美化と提案するにしても、「美しい」の基準は人によって違う。あちらこちらにいろいろな花が

植わっているのは、逆に景観を損ねないか。デザインが必要とまでは言わないが。
梅村副委員長：委員会で煮詰め切れていないので、少し紹介するだけで、あくまでも除草が必要という共通認識が持てたら充分。対策案を示す段階までしていない。

片岡委員長：18日の正午が通告期限。今日明日中に最終案を皆さんに送るので、最終17日中に指摘を。

(2) その他

なし